

身近なものを 使ってあそぼう②

「染める」ことで偶然生まれる美しい色合いや模様は、子どもの感性や表現力を刺激します。そして、じっくりと色が染まっていく様子を観察することは、好奇心や探究心を育みます。また、染めたものを〈あそび〉に活かすことによって、積極的に表現する楽しさを感じたり、友だちと共通のイメージを持つ遊びの道具として使ったりと発展していきます。染める素材や染める方法を工夫することによって、低年齢児からでも主体的に楽しめます。

※染め粉で手がかぶれることもあるので、容器に入れて染める、手袋をする等、気をつけます。

●エコバックを染めよう

2歳児になると、自己主張がよりはっきりとし、自分ひとりで何かを成し遂げる喜びを感じるようになります。また、大人の日常生活を「ごっこ遊び」に取り入れたり、友だちとの関わりも増えてきたりします。そこで、自分で染めたエコバックとお店に並べる食べ物を作ってお買いものごっこを楽しみましょう。

□用意するもの□

- ・無地のバック（A4サイズが入る程度。のりがついている場合は一度水で洗っておきます）
- ・好きな色の染め粉（水で染まるもの）・塩・水・蓋付きの容器（直径10cm位の円柱形）

□作り方□

- ①容器に好きな色の染め粉を入れます。
- ②ペットボトルに入れた水（市販の染め粉の分量に合わせた量をあらかじめ用意しておく）を容器に注ぎます。
- ③塩をひとつまみ加え、蓋をしてよく混ぜます。
- ④無地のバックを容器に入れ、蓋をします。
- ⑤容器を転がしたり振ったりし、バックに色が染み込むようにします。2～3時間ほどそのままにしておきます。
- ⑥蓋をあけ、バックを取り出します。無造作に入れたバックの入れ方によって自然と染まり方が異なり、模様が出てきます。水で洗い、乾いたらできあがり!!（色止め用の溶剤につけると更に扱いやすくなります）

●障子紙を染めよう

比較的丈夫で吸水性もよい障子紙は、染めて遊ぶには扱いやすい素材です。低年齢児は障子紙を揉んで小さくし、年中・年長児は、三角形や四角形に折りたたんで、染め粉の溶けた液体に障子紙を浸します。きちんと折りたたんだ障子紙は、浸し方やたたみ方によって、色合いが変わりません。

液体は、染まる様子をじっくり味わえるよう浅い入れ物に少量ずつ分けておくとういでしょう。

2～3色の液体に浸すと、色が混ざり合い綺麗な模様ができます。また、白い障子紙をゆっくり液体に浸すことによって、紙が水を吸っていき様子をじっくり観察したり、色が混ざっていく様子に気づいたりすることができます。

1色目を染めた後に2色目を染める際には、どうやってら色水が濁らないか、破れないように広げるにはどうしたらよいか、子どもたち自身が体験する中で、自ら考え発見していきます。

<手順>

- ①障子紙を小さく折りたたみます。
- ②色水に障子紙を浸します。
- ③色水が垂れないように絞り、新聞紙の上に広げて乾かします。



※1歳児の場合は、親子で楽しめます。その際、容器ではなく、ビニール袋に入れ、口をしっかり縛った状態で外側から揉みます。その場合には、まんべんなく染まりやすいので、無地のバックを輪ゴムで結んだり、ビー玉などをくるんでから染ると、模様ができます。



イラスト：いがき けいこ

●染めた障子紙を使って 食べ物を作ろう

□作り方□

- ①新聞紙を小さく丸めたり、細長くしたり、作りたいものの形に整えます。
- ②染め紙に筆でのりを塗ります。
- ③染め紙の上に①の新聞紙を置き、くるみます。
- ④セロハンの袋に詰めたり、プラスチックの透明カップに入れたりすると、より本物の食べ物ようになります。色からイメージした味をシールに書き、パッケージの外に貼ります。



●Tシャツを染めて 忍者頭巾を作ろう

身体つきもしっかりし、力強さも増してきた年中長児は、少し大きなものも染めることができます。

自分たちの遊びのイメージに合わせたものを作りだし、更に〈あそび〉を発展させることができるようになるのもこの頃です。友だちと協力しながら作り上げることで、みんなの〈あそび〉のイメージを共通のものとし、より「劇ごっこ」を楽しめます。

□作り方□

- ①子ども用の長袖無地のTシャツを用意します。
- ②大きなボールやバケツなどに染め粉を溶いた液体を用意し、2人一組でTシャツを浸します。
- ③2人で協力してTシャツを引き上げ、しっかり絞ります。
- ④水で洗い、乾かしたらできあがり!! (色止め用の溶剤につけると更に扱いやすくなります)。
※首の部分から目と鼻を出し、袖を頭の後ろで結ぶと忍者頭巾になります。



親子遊び

親子をつなぐ〈親プログラム〉

〈親って…子どもって…〉

「一つの言葉」に続く「後の言葉」を親に考えてもらう「言葉あそび」を楽しみながら、今の思いを引き出して、共感しあえるプログラムです。「親って…」に続く言葉と、「子どもって…」に続く言葉を考えます。

そして、一人ひとりその言葉を発表します。「親って…」大変・愛・見守り・太陽・忍耐・楽しいなど。「子どもって…」かわいい・宝物・自由・天使・かいじゅうなど。

あらためて自分の思いを言葉にするのは考えこみますが、発表を聞きながら、親同士が「そうそう!」と笑いあったり、「当たってる」とお互いに共感しあう姿が見られます。

また、たくさんの親の思いを共感し合う時には発表形式ではなく、紙に書きます。書いたその紙をあらかじめ作っておいた「親って…」の樹と「子どもって…」の樹にそれぞれ貼ります。それぞれの樹を読むことで共感したり気づいたり、あらたな思いを感じたりしてきます。

日々、子どもと向き合い過ぎていて、気持ちに一呼吸入れられる「言葉の樹」になればと思います。

〈我が家のメニュー（情報交換）〉

食に関する悩みは多いものです。家庭でいろいろ工夫した自慢の「我が家のお料理メニュー」を紹介し合うプログラムです。

美味しく・楽しく・食べられるメニュー・レシピ情報を親同士で共有し、そして親子の楽しい食生活へとつなげていきます。

○我が家のカレーライス

野菜に含まれる栄養素の大切さを親に伝え、いろいろな野菜がふんだんに入っている我が家の味、「カレーライス」の作り方です。

○さつま芋料理・レシピ

親子でさつまいも掘りに出かけ、掘ったさつまいもで作ったおすすめメニューです。

○親子でクッキング

「子どもと一緒にできるレシピはないかしら…」そんなお母さんの声に、お子さんと一緒に作ってみたい、作ったことのあるメニュー・レシピです。